

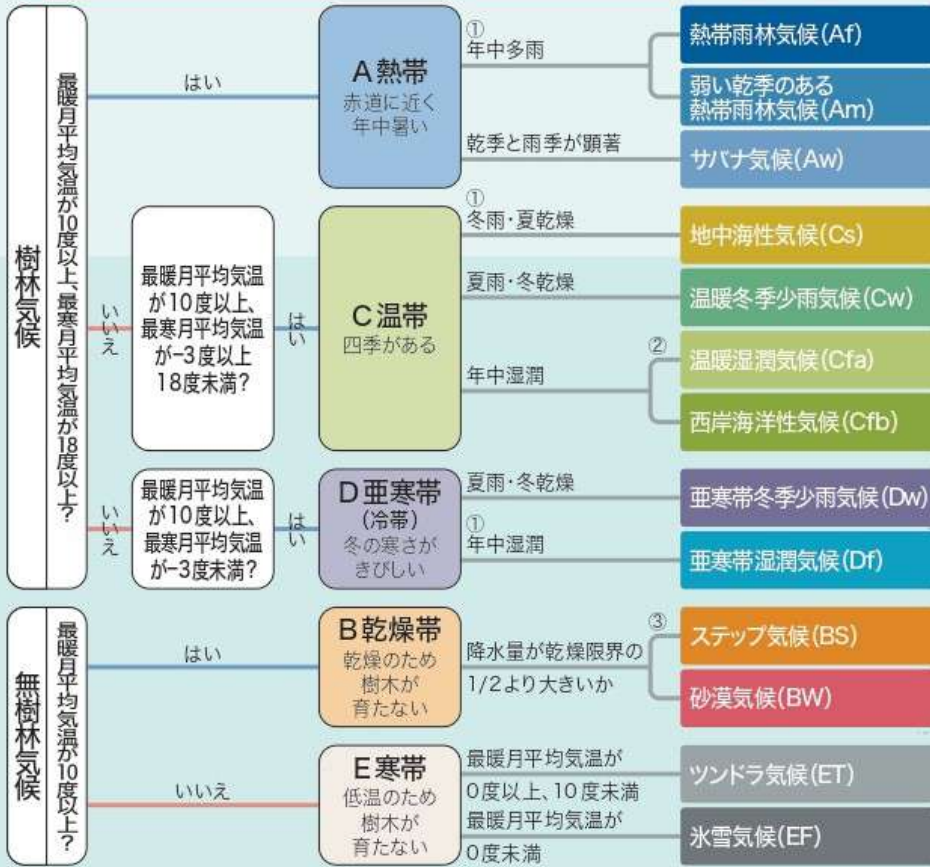
ケッペンの気候区分はどう分ける？

小分類

- ① s: 夏乾燥, w: 冬乾燥, f: 一年平均して雨が降る, m: 中間
- ② a: 最暖月平均気温が22度以上, b: 最暖月平均気温が22度未満
- ③ 乾燥限界の値は、年降水量と年平均気温をもとに求める

中分類

S: ステップ, W: 砂漠, T: ツンドラ, F: フロスト



アラスカ、ノーム近郊の亜寒帯湿潤気候の風景。



ボルネオ、熱帯雨林気候の風景。



いったん人々の生活と関係が深い。また区分に世界中で多く観測される気温と降水量だけを使った、シンプルであるうえ各地の気候を比較しやすいのも長所だ。一方、2要素だけで気候を区分するため、実際には多様な気候が同じ区分にまとめられてしまいうような過度な単純化が見られ、また土地の標高が気候に与える影響が十分に考慮されていないなどといった短所がある。このため、後に高山気候(H気候)が加えられるなどの改良が加えられている。



イギリス、西岸海洋性気候の風景。

東南アジア 多様な民族・言語・宗教 ASEANに団結、急成長

植民地にならなかったタイ以外は旧宗主国から独立、多く熱帯気候に属し、民族・言語・宗教が多様。各地に華僑が多く住み、急成長を続ける。



■ 東南アジアの気候



東南アジアの地勢、人口

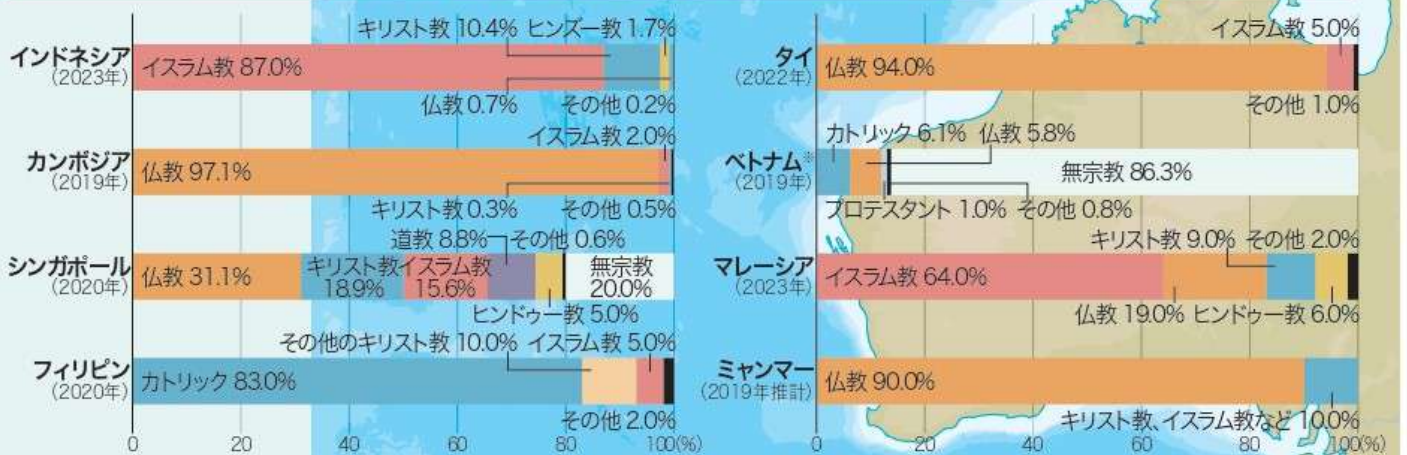
※人口は世界銀行「World Development Indicators」より2023年の値



タイの自動車産業、マレーシアの電子・電気産業など、工業化にともない東南アジア経済は発展してきた。大都市には高層ビルが立ち並び、都市景観を大きく変えた。



■ ASEAN主要国の宗教



出典:主に外務省、ほか各国政府統計

より深く 通貨危機は、国の経済にどのような影響を与えるだろうか。



南アジア

人口が多く言語・宗教が多様 インド経済は成長、課題も

各国に主要な宗教はあるが民族・言語とも多様、インドが地域の中核で人口増・経済発展をしてきた。ただし国境問題は未解決。

■ 南アジアの気候

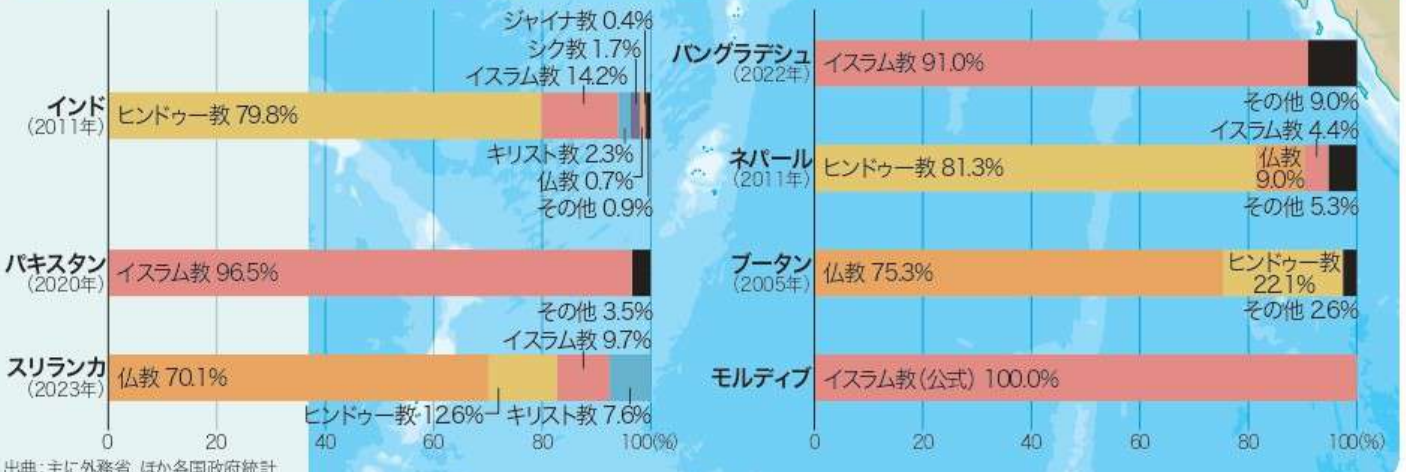


南アジアの地勢、人口

※人口は世界銀行「World Development Indicators」より2023年の値



■ 南アジア各国の宗教



出典:主に外務省、ほか各国政府統計

より深く インドの経済発展を支えたIT産業は、なぜインドで大きく進展したのだろうか。

全般に少子高齢化が進む

北海・バルト海周辺で平野が多く、暖流の北大西洋海流のおかげで付近の気候は比較的温暖・湿潤。ピレネー山脈・アルプス山脈からイタリア半島・バルカン半島にかけて新期造山帯(アルプス・ヒマラヤ造山帯)が続き、氷河地形や沈水海岸が見られる。ロシアは広大な領土をもち、気候もさまざまだが多くは亜寒帯・寒帯に属する。人口は全般に少子高齢化が進み、なかで

も東欧・中欧の農村部で人口減少が顕著に見られる。ロシアの人口密度は低く、人口の大部分が西部に偏っている。

言語・宗教で欧口に違い

EUでは多言語政策を採用、少数言語を保護する。一方、ロシアでは憲法で自治共和国での自国語使用が保障されるものの、国家統合の観点からロシア語使用を進める。ヨーロッパ西部ではラテン語系諸語が話され、英独・北欧でゲルマン語系、東部では

ほぼスラブ語系諸語が話される。フィンランド語やハンガリー語はフィンウゴル語派と呼ばれ、両語ともウラル語族に属する。宗教面では、概ね西欧で世俗化が進み、中東欧で伝統的な宗教帰属意識が強い傾向にある。ロシアでは正教が政治と強い結びつきをもち、22年からのウクライナ全面侵攻さえ正当化した。ルーマニアがラテン語系だが、これは古代ローマが当地を征服した際に、ローマ人がもたらしたラテン語が変化したものとされる。

言語分布



出典:ブリタニカ、『新詳資料 地理の研究』(帝国書院)ほか

主な国の宗教

カトリック

ローマ・カトリック教会。新教(プロテスタント)に対し旧教。ポルトガル、スペイン、フランス、イタリア、ポーランドなどで多く信仰される。

プロテスタント

16世紀の宗教改革によりカトリック教会から分離したキリスト教諸派。イギリス、ドイツ、アイスランド、北欧などで多く信仰される。

正教会

東方正教会の略称。11世紀、ローマ総主教座と東ローマ帝国に属するコンスタンティノポリス総主教座が東西に分裂、東側が正教会に。ロシア・東欧・ギリシャなどで信仰される。

TOPICS

主な国の人口政策

フランスが、高い出生率を維持した家族・育児支援、女性の労働参加促進などの充実した支援策で有名。しかし、近年は出生率低下の傾向。スペインが積極的な移民受け入れにより労働力・税収を確保、人口減少抑制・経済成長に寄与する。イタリア南部プーリア州の、卵子凍結公費補助による晩婚・晩産化対策がユニーク。ただし効果は限定的とも。

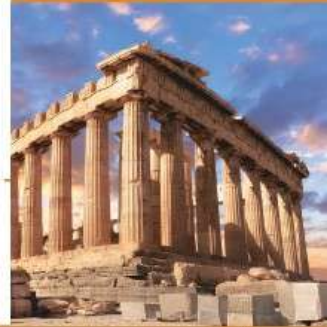
人口増加率



出典:国連「World Population Prospects 2024」より2023年の値

北欧は社会保障が充実しているが、費用は国民負担に大きく依存する。





スイス・オーストリア・アイスランドやミニ国家 生活水準が高い国が多く ミニ国家は観光・切手が重要

1人あたりGNIがEU平均よりはるかに高い国が多い。
各国とも観光収入は重要で、それぞれ独自の収入源をもっている。

アイスランド

世界最高レベルの生活水準と長寿を誇る国。世界でもっともジェンダーギャップの少ない国でもあり、1980年に当選した女性大統領は世界で初めて民选的に選ばれた女性国家元首。島を大西洋中央海嶺が通り、火山や温泉が多い。

スイス

国土の6割がアルプスという山岳国。永世中立、連邦制と直接民主制が特徴で、ドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語という4つの公用語をもつ。資源には乏しいが高度な技術の精密機械工業が発達する。

オーストリア

中世以来ドイツとの関係が深く、ドイツ系住民が大半、カトリック人口が約55%。第2次大戦中にドイツに併合されたが戦後、中立国として独立を回復した。のち1995年にEUに加盟。首都ウィーンは音楽の都として名高い。

ミニ国家

リヒテンシュタイン

1866年独立、翌年に永世中立国として国際的に承認され、軍隊を有しない。立憲君主国。スイスとの結びつきが強く、外交・国防はスイスに委任する。

サンマリノ

イタリア中部にある、世界で5番目に面積が小さな国。ヨーロッパ最古の共和国。13世紀に自治都市となり、天然の要塞を利用し自由と独立を守り続けた。

マルタ

1964年にイギリスから独立し英連邦に加入した。シチリア島の南方にある地中海の要衝。英語とマルタ語が公用語だが、マルタ語はアラビア語に近い独特な言語。

バチカン

ローマ市内にありローマ教皇を元首とする、面積約0.44km²という世界最小の独立国。カトリックの総本山で、公用語はラテン語だが外交にはフランス語、日常会話にイタリア語を用いる。

モナコ

世界で2番目に小さい国で、世界有数のビーチリゾート。前国王レーニエ3世は女優グレース・ケリーを妃に迎え話題となった。モンテカルロのカジノが有名。

アンドラ

フランスとスペインの共同統治下にあったが、1993年に独立した。住民の3分の2がスペイン国籍のカタルーニャ人で、カタルーニャ語が公用語、大半がカトリックを信じる。



より深く 永世中立国であるメリットとデメリットは何だろうか。



地形、気候、資源

南端を除き安定陸塊 豊富・貴重な資源をもつ

多くは古い時代にできた楕状地・卓状地の安定陸塊。気候は多様、
鉱産資源も多様。特定地域には貴重な資源が多く外国勢も狙う。

アフリカの地勢



アフリカ大地溝帯

アフリカ東部を南北に走る長さ数千 km の細長い凹地。北は紅海からエチオピア、ウガンダ近辺ヴィクトリア湖などの大湖水地帯を左右に分かれて通り、マラウイ湖からインド洋にいたる。地球内部のマントルの上昇によって、現在も広がるアフリカの大地の裂け目。

安定陸塊

サハラ砂漠以南の大部分が楕状地・卓状地の安定陸塊で、マダガスカルも含む。古い地質時代にできたあと造山運動を受けなかった、平坦な地が多い。アフリカ南端のドラケンスバーグ山脈だけが古期造山帯。

ナミブ砂漠

アフリカ南西部にあって、大西洋岸沿いに南北2000 kmほどにわたり延びる砂漠。寒流のベンゲラ海流の影響で気温は低い非常に乾燥し、植生は皆無に近い。海水との温度差によってよく濃霧が生じる。

古期造山帯のドラケンスバーグ山脈

南アフリカ南東部にある山脈で、サハラ砂漠以南がほぼ安定陸塊であるのに対してここだけ古期造山帯。レトと南アフリカにまたがり、マロティ・ドラケンスバーグ公園が世界遺産に登録されている。



より深く サハラ砂漠以南のアフリカには内陸国が多い。内陸国には、どんな特徴があるだろうか。

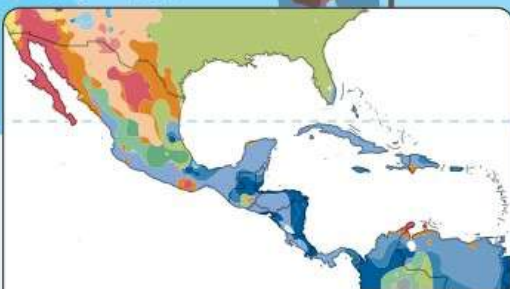
中米

メキシコが経済大国 民族・産業に歴史の名残

GNIの規模と成長でメキシコが抜きん出るが、対外債務も多い。
植民地時代の名残として民族・産業構成とキリスト教信仰がある。



■ 中米の気候



- Af: 熱帯雨林気候
- Am: 弱い乾季のある 熱帯雨林気候
- Aw: サバナ気候
- BW: 砂漠気候
- BS: ステップ気候
- Cs: 地中海性気候
- Cw: 温暖冬季少雨気候
- Cfa: 温帯湿潤気候

詳しくは→P56

中米諸国にはモノカルチャー経済からの脱却を試みる国も多い。成功例のひとつがコスタリカだ。農産品の輸出価格低迷を機に政府がエコツーリズムを推進、環境保全制度の導入・国立公園整備などを進め、観光業を大きく育てた。

旧宗主国からの影響

メキシコ西部からパナマ地峡にかけて、それからキューバなど大アンティール諸島・ドミニカ国など小アンティール諸島まで新期造山帯。ベリーズとジャマイカが旧イギリス領、ハイチが旧フランス領である以外、ほとんどスペイン領だった。多くの土地にアフリカ人奴隷が連れてこられたが、なかでもジャマイカにその名残がはっきりと見え、アフリカ系が9割超。他は混血が多め。ハイチはスペイン領からフランス領となってアフリカ人奴隷が多く連れてこられたが、世界で

より深く モノカルチャー経済がもつ最大のデメリットとは何だろうか。